令和２年度

授業計画書（シラバス）

～２年～

MIYAZAKI AGRICULTURAL JUNIOR COLLEGE
宮崎県立農業大学校

宮崎県立農業大学校

令和２年度実施　専攻別教育課程表（２年生）

種別	学科	区分	科目ID	２年生　開講科目	単位数	授業時数	農学科専攻						畜産学科専攻			
							作物	野菜	花	果樹	茶	農フード	畜フード	肉用牛	酪農	養豚
教養科目	全学科	必修	K201	保健・体育	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			K202	くらしと法律・経済	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			K203	英会話	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		選択	S201	英語特別講義Ⅲ	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			S202	就職対策Ⅱ	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
専門科目	全学科	必修	M201	アグリビジネス	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M203	インターンシップⅢ	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M204	卒業論文	4	60	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		一般	M202	農業生産工程管理(GAP)	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			M205	海外農業研修	2	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			M206	農政施策	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		選択	S203	植物バイオテクノロジー	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲			
			S204	微生物活用	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			S205	商業簿記	2	30	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			S206	会社経営（フード以外）	2	30	▲	▲	▲	▲	▲			▲	▲	▲
			S207	教育実習	2	30	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	農学科	必修	A201	専攻実習（農学）	15	450	◎	◎	◎	◎	◎					
			A202	時間外実習（作・野・花・果・茶	4	120	◎	◎	◎	◎	◎					
			A203	作物の栽培管理	1	15	◎									
			A204	施設野菜の栽培管理	1	15		◎								
			A205	花きの栽培管理	1	15			◎							
			A206	果樹の栽培管理	1	15				◎						
			A207	茶の栽培管理	1	15					◎					
			A208	茶の歴史・文化	1	15					◎					
			A220	営農計画作成	1	15	◎	◎	◎	◎	◎					
		一般	A209	作物の流通・販売	1	15	○									
			A210	施設野菜の流通・販売	1	15		○								
			A211	花きの流通・販売	1	15			○							
			A212	果樹の流通・販売	1	15				○						
			A213	茶の流通・販売	1	15					○					
			A214	作物経営コンサルティング	1	15	○									
			A215	施設野菜経営コンサルティング	1	15		○								
			A216	花き経営コンサルティング	1	15			○							
			A217	果樹経営コンサルティング	1	15				○						
			A218	茶経営コンサルティング	1	15					○					
			A219	育種と知的所有権	1	15	○	○	○	○	○					
			A221	法人経営	1	15	○	○	○	○	○					
			A222	先進農業事例研究	1	15	○	○	○	○	○					
			A223	農業指導演習	1	15	○	○	○	○	○					
	畜産学科	必修	Z201	専攻実習（畜産）	14	420								◎	◎	◎
			Z202	時間外実習（肉用牛・養豚）	4	120								◎		◎
			Z203	時間外実習（酪農）	4	120									◎	
			Z207	肉用牛経営の事例研究	1	15								◎		
			Z208	酪農経営の事例研究	1	15									◎	
			Z209	養豚経営の事例研究	1	15										◎
			Z210	肉用牛の飼養管理	1	15								◎		
			Z211	乳牛の飼養管理	1	15									◎	
			Z212	豚の飼養管理	1	15										◎
			Z213	肉用牛の飼料設計	1	15								◎		
			Z214	乳牛の飼料設計	1	15									◎	
			Z215	豚の疾病と衛生	1	15										◎
			Z216	育種と繁殖	2	30								◎	◎	◎
		一般	Z204	肉用牛経営コンサルティング	1	15								○		
			Z205	酪農経営コンサルティング	1	15									○	
			Z206	養豚経営コンサルティング	1	15										○
			Z217	家畜の衛生と環境	1	15								○	○	○
			Z218	家畜と解剖	1	15								○	○	○
			Z219	畜産の新技術	1	15								○	○	○
			Z220	畜産物の加工と流通	1	15								○	○	○
	フードビジネス専攻	必修	F201	専攻実習（フード）	9	270						◎	◎			
			F202	時間外実習（フード）	4	120						◎	◎			
			F203	食品関連企業実習	3	90						◎	◎			
			F204	会社経営（フード）	2	30						◎	◎			
			F205	食品化学	1	15						◎	◎			
			F206	食品製造実習	3	90						◎	◎			
			F207	新商品開発	2	30						◎	◎			
			F208	フードビジネス	2	30						◎	◎			
		一般	F209	商品開発と流通販売	1	15						○	○			
			F210	6次産業化	1	15						○	○			

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	K201	保健・体育	学科名	全学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	９月～11月
科目の概要	生涯スポーツの実践や健康について、理論と実践をとおして学ぶ。							
講師名	農業大学校職員 外部講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各スポーツの実践を通して運動技能を高め、チームに貢献できる能力を養う。 保健では自らの健康・安全についての理解を深め、健康を保持するための能力を養う。							
使用教材	農大施設 講師の準備する教材							

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義終了後のレポートにより評価する	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	各スポーツの基本技術習得	1	
2	各スポーツの基本技術習得	1	
3	各スポーツの基本技術習得	1	
4	試合形式による各スポーツの実践	1	
5	試合形式による各スポーツの実践	1	
6	試合形式による各スポーツの実践	1	
7	試合形式による各スポーツの実践	1	
8	試合形式による各スポーツの実践	1	
9	試合形式による各スポーツの実践	1	
10	試合形式による各スポーツの実践	1	
11	試合形式による各スポーツの実践	1	
12	試合形式による各スポーツの実践	1	
13	試合形式による各スポーツの実践	1	
14	試合形式による各スポーツの実践	1	
15	生涯を通じる健康についての講話	1	

授業時間外に必要な学修	
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	K202	くらしと法律・経済	学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	４月～６月
科目の概要	・暮らしに関わる法律と身近な経済について学ぶ ・国内及び県内の経済情勢と県内企業の経営動向を学ぶ							
講師名	行政書士（５）、みやぎん経済研究所主任研究員（５）、 宮崎産業経営大学准教授（５）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	将来の農業経営者として必要な経済及び法律に関する基礎知識を身につける。							
使用教材	講師が作成した配布資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	夫婦と親子の法律	1	4月9日　2限目
2	日常生活と法律（売買と契約含む）	1	4月9日　3限目
3	農地に関する法律（生産法人、６次産業化含む）	1	4月16日　2限目
4	職場の法律	1	4月16日　3限目
5	法律の基本ルーツ（国民の義務と権利）	1	4月23日　2限目
6	Ⅰ経済と景気	1	4月23日　3限目
7	Ⅱ世界経済を取り巻く環境	1	4月30日　2限目
8	Ⅲ日本経済を取り巻く環境	1	4月30日　3限目
9	Ⅳ宮崎県の景気動向	1	5月7日　2限目
10	Ⅴ農業を取り巻く環境　試験	1	5月7日　3限目
11	経営・マーケティング戦略の基本	1	5月14日　2限目
12	生産・流通・販売活動を通じた付加価値活動	1	5月14日　3限目
13	〃（ワークショップ）	1	5月21日　2限目
14	発表（各グループごとに）	1	5月21日　3限目
15	まとめ　試験	1	5月28日　3限目
授業時間外に必要な学修			
再試験及び補習対象の実施基準			

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	K203	英会話	学科名	全学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月から1月
科目の概要	基礎的な英語の能力、技能を養う							
講師名	内藤直美						実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	海外研修における簡単なあいさつ、日常会話ができるようになる							
使用教材	講師の準備する資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	インタビューテスト、リスニングテストにより90点満点で評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	英会話１	1	9/8 2.3限目
2	英会話２	1	9/15 2.3限目
3	英会話３	1	10/6 2.3限目
4	英会話４	1	10/13 2.3限目
5	英会話５	1	畜10/20 2限目　農10/27 2限目
6	英会話６	1	畜10/20 3限目　農10/27 3限目
7	英会話７	1	11/10 2.3限目
8	英会話８	1	11/17 2.3限目
9	英会話９	1	11/24 2.3限目
10	英会話１０	1	12/1 2.3限目
11	英会話１１	1	12/8 2.3限目
12	英会話１２	1	12/15 2.3限目
13	英会話１３	1	1/8 2.3限目
14	英会話１４	1	1/12 2.3限目
15	英会話１５	1	1/15 2.3限目

授業時間外に必要な学修	
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	M201	アグリビジネス	学科名	全学科	学年	全学年	学期	通年
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	７月～10月
科目の概要	アグリビジネス分野で活躍されている経営者や関係機関の専門家を講師として招聘し、アグリビジネスの最前線について学習する。その中で企業にいたるまでの経緯や経営理念等からアグリビジネスを成功させるためのポイントや手法について学ぶ。							
講師名	外部講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	アグリビジネスの現状と課題について理解を深める							
使用教材	講師が準備する資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとのレポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		7/13　3限目
2	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		7/20　2限目
3	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		7/20　2限目
4	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		7/27　2限目
5	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		7/27　3限目
6	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		9/7　2限目
7	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		9/7　3限目
8	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		9/14　2限目
9	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		9/14　3限目
10	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		9/28　2限目
11	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		9/28　3限目
12	木村幸司氏（KIMUERA　FARM）仮		10/5　2限目
13	〃		10/5　3限目
14	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		10/12　2限目
15	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義		10/12　3限目
授業時間外に必要な学修			
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。		

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	M202-フ	農業生産工程管理　Ⅱ（ＨＡＣＣＰ）	学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ	学年	2年	学期	前後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月

科目の概要	本科目では、食品衛生法等の一部改正（Ｈ３０年６月１３日公布）により全ての食品等事業者は、原則としてＨＡＣＣＰに沿った衛生管理手法が必要となった。食品製造における衛生管理や一般的衛生管理やＨＡＣＣＰの概略について学ぶとともに、食の安全性に関して衛生管理や品質管理を徹底し安全･安心の商品を消費者に提供することの重要性を学ぶ。
講師名	・外部講師　中治　十成氏（なかじ　たるしげ） 　ＮＰＯ法人　宮崎食品安全研究会会長 ・農学科フードビジネス専攻　教授　松葉久美
実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	学生が、農畜産物を利用した加工品を製造する中で、ＨＡＣＣＰによる衛生管理やＨＡＣＣＰの考え方を取り入れた衛生管理計画に基づき、安全な食品製造の重要性について、理解することを到達目標とする。
使用教材	講師が準備する資料 ＨＡＣＣＰの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書　（発行：厚生労働省）

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～3	食品製造における衛生管理について 食品衛生法、改正食品衛生法、食品に関する国際基準と国内法の関係	3	外部講師
4～6	企業における一般衛生とＨＡＣＣＰの取り組み 食品衛生７Ｓ従業員教育）、ＨＡＣＣＰ、ＪＦＳ－Ｂ，Ｃ規格、ＩＳＯ22000及びFSSC22000の概略について	3	外部講師
7～8	食品製造におけるＨＡＣＣＰによる管理及び学校給食用コッペパンのＨＡＣＣＰシステム構築 殺菌理論概略、コッペパン製造のＨＡＣＣＰプラン作成、企業が採用している商品開発理論（ＭＩＰ）	3	外部講師
10	テスト	1	外部講師
10～15	視察研修　食品関連企業におけるＨＡＣＣＰの取り組み	5	・農業大学校職員 ・食品関連企業
授業時間外に必要な学修	予習、復習及び試験に向けた学習		
再試験及び補習対象の実施基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。		

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	M202-畜	農業生産工程管理 Ⅱ（ＧＡＰ）	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月

科目の概要	・農業生産において、消費者から信頼される安全･安心な農産物を提供する手法としてＧＡＰの考え方を学ぶ。		
講師名	・宮崎大学農学部職員 ・農業大学校職員	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・農業生産工程管理（ＧＡＰ）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得する。 ・ＧＡＰ維持・更新審査にて対応できる知識を習得する。		
使用教材	・講師準備資料		

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	ＧＡＰの基礎①	4/20 10:00～12:10	担当講師：宮崎大学
2	ＧＡＰの基礎②		
3	ＧＡＰの認証と導入	4/27 10:00～12:10	
4	ひなたＧＡＰの概要		
5	リスク分析の考え方	5/11 10:00～12:10	
6	生産工程におけるリスク分析		
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析	5/18 10:00～12:10	
8	労働安全のリスク分析		
9	ひなたＧＡＰチェックリストの解説①	5/25 10:00～12:10	
10	ひなたＧＡＰチェックリストの解説②		
11	ＧＡＰ現地研修（農大校ほ場）	6/1 10:00～12:10	
12	ＧＡＰ現地研修（農大校ほ場）		
13	認証制ＧＡＰの解説①	6/8 10:00～12:10	
14	認証制ＧＡＰの解説②		
15	試験	6/15 10:00～12:10	担当講師：垂水

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	農業生産工程管理（ＧＡＰ）			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	・農業生産において、消費者から信頼される安全･安心な農産物を提供する手法としてＧＡＰの考え方を学ぶ。								
講師名	宮崎大学農学部職員 農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・農業生産工程管理（ＧＡＰ）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得させる。 ・ＧＡＰ維持・更新審査にて対応できる知識を習得させる。								
使用教材	・講師準備資料								

成績評価	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	ＧＡＰの基礎①	4/20 13:10-15:20	宮崎大学 農学部 真 智代 先生
2	ＧＡＰの基礎②		
3	ＧＡＰの認証と導入	4/27 13:10-15:20	
4	ひなたＧＡＰの概要		
5	リスク分析の考え方	5/11 13:10-15:20	
6	生産工程におけるリスク分析		
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析	5/18 13:10-15:20	
8	労働安全のリスク分析		
9	ひなたＧＡＰチェックリストの解説①	5/25 13:10-15:20	
10	ひなたＧＡＰチェックリストの解説②		
11	ＧＡＰ現地研修（農大校ほ場）	6/1 13:10-15:20	
12	ＧＡＰ現地研修（農大校ほ場）		
13	認証制ＧＡＰの解説①	6/8 13:10-15:20	
14	認証制ＧＡＰの解説②		
15	試験	6/15 13:10-14:10	農業大学校指導職員
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。		

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	M203	インターンシップⅢ	学科名	全学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	９月下旬
科目の概要	農業以外の業種での職業体験							
講師名	県内福祉事業所、保育施設等の専門職員					実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	異業種での研修により視野を広げ、柔軟な社会性や人間性を身につける。							
使用教材	各指導者が準備する資料等							

成績評価	方法	研修日誌（20点）	研修報告書（30点）	研修評価書(30点)	出席（20点）
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 Ａ(良い)3点/1日 Ｂ(普通)2点/1日 Ｃ(悪い)0点/1日	・提出 提出有り：10点 提出無し： 0点 ・内容 ※提出のみ採点 Ａ(良い)20点 Ｂ(普通)10点 Ｃ(悪い) 5点	※講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
１日目 ～ ３日目	・研修先の事業概要について学ぶ。 ・実習や見学とおして関連事業に関する知識や技術を学ぶ。	１８時間	・指導は実務経験のある職員に限定する。 ・説明等を講義形式で行う場合がある。
４日目 ～ ５日目	・講師等との意見交換をとおして、受入れ先の業務の実態や自分の将来の職業との関連、相違について理解を深める。	１２時間	
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。		

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	M204-農	卒業論文		学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	9月～12月
科目の概要	地域農業及び自家経営におけるテーマを設定し、そのテーマにそった的確な計画を作成する。その計画に基づき、実践・調査・まとめ等を実施する。その結果を卒業論文としてまとめる。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	プロジェクトの計画、実施、調査、卒業論文としてのまとめ等を通じて、課題解決能力及び栽培技術・経営管理能力の向上等農業の担い手としての総合的な能力を習得する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								

成績評価						
	方法	課題設定（10点）	実施内容（20点）	データ整理（20点）	論点整理（20点）	自主的取組（30点）
	基準	課題の背景が整理されているかを評定する。 A（良い）10点 B（普通）　5点 C（悪い）　3点	課題設定と実施内容の整合性がとれているかを評定する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	調査データが記録され、データの分析ができているかを評定する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	調査結果やまとめ、残された課題など論点が整理できているかを評価する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	課題設定から論点整理まで自主的・主体的にできているかを評定する。 A（良い）30点 B（普通）20点 C（悪い）10点

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	卒業論文の進め方（オリエンテーション）	1	
２～５	テーマの設定と研究内容の検討	4	
６～４０	研究内容に沿った実践・調査	35	
４０～５０	データの分析・検討	10	
５１～６０	卒業論文としてのまとめ	10	

授業時間外に必要な学修	卒業論文の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	M204-畜	卒業論文		学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前・後期
授業の方法	実習・演習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	４月～１月
科目の概要	・地域農業及び自家経営におけるテーマを設定し、そのテーマにそった的確な計画を作成する。その計画に基づき、実践・調査・まとめ等を実施する。その結果を卒業論文としてまとめる。								
講師名	・農業大学校指導職員：来間大志、谷口美津子、佐藤登士夫、西礼華						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・プロジェクトの計画、実施、調査、卒業論文としてのまとめ等を通じて、課題解決能力及び畜産技術・経営管理能力の向上等農業担い手としての総合的な能力を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								

成績評価						
	方法	テーマ設定（１０点）	研究内容（２０点）	データ整理（２０点）	論点整理（２０点）	自主的取組（３０点）
	基準	地域農業及び自家経営の現状に鑑み、テーマの設定がふさわしいかの視点で評価。	試験区の設定や調査項目等研究内容が課題解決のための内容になっているか、また、研究内容に創意工夫が見られるか等の視点で評価。	データを正確に取得しているか、課題解決にむけたデータの整理が行われているかの視点で評価。	データの分析・検討が的確に実施できているか、また、結果を地域農業及び自家経営に有効に展開できるか等の視点で評価。	主体的に取り組んでいるか、また、他の学生や職員等と連携しながら目標達成に向けた取組を行っているかの視点で評価。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	卒業論文の進め方（オリエンテーション）	1	
２～５	テーマの設定と研究内容の検討	4	
６～４０	研究内容に沿った実践・調査	35	
４０～５０	データの分析・検討	10	
５１～６０	卒業論文としてのまとめ	10	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	M204-フ	卒業論文		学科名	農学科 畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	10月～1月
科目の概要	フードビジネスに関する研究テーマを自ら設定し、テーマに即した調査や実証等の研究を行うと共にプロジェクト活動として発表し、研究報告書として卒業論文にまとめる。								
講師名	農学科　フードビジネス専攻　教　授　　松葉　久美 畜産学科フードビジネス専攻　主任技師　今吉　里華						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	学生が、主体的にフードビジネスに関するプロジェクトテーマを設定し、実施計画や進行管理を行い、実証活動をまとめ、プロジェクト活動として発表する。また、研究報告書を作成することにより、課題解決に向けた一連のスキルを習得することを到達目標とします。								
使用教材	フードビジネス専攻で配布された資料、各自テーマに沿った図書や文献等								

成績評価						
	方法	課題設定（10点）	実施内容（20点）	データ整理（20点）	論点整理（20点）	自主的取組（30点）
	基準	課題の背景が整理されているかを評定する。 A（良い）10点 B（普通）　5点 C（悪い）　3点	課題設定と実施内容の整合性がとれているかを評定する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	調査データが記録され、データの分析ができているかを評定する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	調査結果やまとめ、残された課題など論点が整理できているかを評価する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	課題設定から論点整理まで自主的・主体的にできているかを評定する。 A（良い）30点 B（普通）20点 C（悪い）10点

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
２～６	テーマ設定、テーマに関する基礎調査	6	
７～９	調査まとめ・研究方法の確定	3	
10～40	調査および実証	31	
41～50	プロジェクト活動の発表	10	
51～60	卒業論文の作成	10	
		60	

授業時間外に必要な学修	日頃から、自身の研究に関連する情報について、図書や統計データ等、調査事例や卒業論文などについて研究する。また、プロジェクト活動のためのスキルを向上させるため、プレゼンテーション能力の向上に向けた自主学習を実施する。
再試験及び補習対象の実施基準	補講や再試験は実施しない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	M205	海外農業研修	学科名	全学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	一般	単位数	2	時間数	60	開講時期	１月
科目の概要	海外でのファームステイや産地視察、流通視察を通して海外の農業の実態や経営について学ぶ。							
講師名	学科担当職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	研修を通じて海外の農業経営について学び、国際感覚やグローバルな視点を身につける。							
使用教材	研修のしおり							

成績評価	方法	研修報告書（７０点）	出席率（３０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし： 0点 ・内容 Ａ（良い）40点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い）10点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により30点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	事前指導①　研修目的　研修内容等	1	
2	事前指導②　研修目的　視察先　ファームステイでの過ごし方	1	
3	事前指導③　研修目的　研修準備について	1	
4～60	海外研修　ニュージーランドオークランド	57	

授業時間外に必要な学修	研修報告作成
再試験及び補習対象の実施基準	やむを得ない事情により海外農業研修に参加できない場合

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	農政施策			学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～11月
科目の概要	・農産物の現状と課題、主要施策等について広く学習する。								
講師名	農政企画課担当者、農産園芸課担当者、JA宮崎経済連担当者						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・本県農産物の現状を知り、生産振興方策や各種補助事業等を理解する。								
使用教材	・講師作成資料								

成績評価				
	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。	受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1 2	世界及び日本、宮崎県における農産物の現状と課題 試験①	10/14 10:00-12:10	農政企画課 農政計画担当
3 4	穀類関係の情勢及び主要施策 試験②	10/21 10:00-12:10	農産園芸課 作物担当
5 6	野菜関係の情勢及び主要施策 試験③	10/28 10:00-12:10	農産園芸課 野菜担当
7 8	花き関係の情勢及び主要施策 試験④	11/4 10:00-12:10	農産園芸課 花き担当
9 10	茶関係の情勢及び主要施策 試験⑤	11/11 10:00-12:10	農産園芸課 特用担当
11 12	果樹関係の情勢及び主要施策 試験⑥	11/18 10:00-12:10	農産園芸課 果樹担当
13 14 15	流通・消費動向について 市場取引の方法と機能・販売形態について 試験⑦	11/19 8:50-12:10	JA宮崎経済連 販売担当
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として、再試・補習は実施しない。		

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	M206-畜	農政施策	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前・後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	６月～１１月

科目の概要	・畜産の現状と課題、主要施策及び関係法規、制度について広く学習する。
講師名	・畜産振興課：畜産新生企画担当（１～３）、肉用牛振興担当（４～６）、 酪農・中小家畜振興担当（７～９）、畜産経営支援担当（１０～１２）、農業大学校指導職員：谷口 美津子（１３～１５）
実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・全国及び宮崎の畜産の現状とその施策を理解する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。
使用教材	・講師作成資料

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容	時間	備　考
1	世界及び日本における畜産の現状と課題	10/15 8:50～12:10	担当講師：畜産振興課 畜産新生企画担当
2	宮崎県における畜産の現状と課題		
3	酪農及び肉用牛生産振興法、家畜商法、家畜取引法　試験①		
4	肉用牛情勢	10/19 8:50～12:10	担当講師：畜産振興課 肉用牛振興担当
5	肉用牛関係主要施策		
6	肉用牛関係価格安定制度、牛トレーサビリティ制度　試験②		
7	酪農・養豚・養鶏情勢	11/5 8:50～12:10	担当講師：畜産振興課 酪農・中小家畜振興担当
8	酪農・養豚・養鶏関係主要施策		
9	酪農・養豚・養鶏関係価格安定制度　試験③		
10	飼料情勢	10/23 8:50～12:10	担当講師：畜産振興課 畜産経営支援担当
11	飼料・家畜排せつ物関係主要施策		
12	飼料関係価格安定制度、飼料安全法、家畜排せつ物法　試験④		
13	家畜人工授精の制度と関係法規 ●〈関係法規〉家畜改良増殖法、家畜伝染病予防法、獣医師法	6/19 8:50～12:10	担当講師：谷口
14	家畜人工授精の制度と関係法規 ●〈関係法規〉家畜改良増殖法、家畜伝染病予防法、獣医師法		
15	家畜人工授精の制度と関係法規　試験⑤ ●〈関係法規〉家畜改良増殖法、家畜伝染病予防法、獣医師法		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	S201	英語特別講義Ⅲ	学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～
科目の概要	英文読解、和文英訳、時事英語など英語の理解を深め、編入学試験に対応した英語力を身につける。							
講師名	内藤直美					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	４年制大学編入学試験に対応できる英語力を身につける。英検２級合格を目指す							
使用教材	講師が準備した資料							

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	英文読解、和文英訳、時事英語	1	4/14　2限目
2	英文読解、和文英訳、時事英語	1	4/14　3限目
3	英文読解、和文英訳、時事英語	1	4/21　2限目
4	英文読解、和文英訳、時事英語	1	4/21　3限目
5	英文読解、和文英訳、時事英語	1	4/28　2限目
6	英文読解、和文英訳、時事英語	1	4/28　3限目
7	英文読解、和文英訳、時事英語	1	5/12　2限目
8	英文読解、和文英訳、時事英語	1	5/12　3限目
9	英文読解、和文英訳、時事英語	1	5/19　2限目
10	英文読解、和文英訳、時事英語	1	5/19　3限目
11	英文読解、和文英訳、時事英語	1	5/26　2限目
12	英文読解、和文英訳、時事英語	1	5/26　3限目
13	英文読解、和文英訳、時事英語	1	6/2　2限目
14	英文読解、和文英訳、時事英語	1	6/2　3限目
15	試験	1	6/9　3限目

授業時間外に必要な学修	講義開始時期までに英検準２級合格を目指す。 講義終了時期に英検２級合格を目指す。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	S202	就職対策Ⅱ	学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	就職試験において必要となる一般常識について学ぶ。							
講師名	磯野正子					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	就職試験に対応できる社会一般常識を身につける							
使用教材	SPI対策問題集、講師が準備した資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	就職試験のための社会一般常識①	1	4/14　2限目
2	就職試験のための社会一般常識②	1	4/14　3限目
3	就職試験のための社会一般常識③	1	4/21　2限目
4	就職試験のための社会一般常識④	1	4/21　3限目
5	就職試験のための社会一般常識⑤	1	4/28　2限目
6	就職試験のための社会一般常識⑥	1	4/28　3限目
7	就職試験のための社会一般常識⑦	1	5/12　2限目
8	就職試験のための社会一般常識⑧	1	5/12　3限目
9	就職試験のための社会一般常識⑨	1	5/19　2限目
10	就職試験のための社会一般常識⑩	1	5/19　3限目
11	就職試験のための社会一般常識⑪	1	5/26　2限目
12	就職試験のための社会一般常識⑫	1	5/26　3限目
13	就職試験のための社会一般常識⑬	1	6/2　2限目
14	就職試験のための社会一般常識⑭	1	6/2　3限目
15	試験	1	6/9　3限目

授業時間外に必要な学修	
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	S203	植物バイオテクノロジー	学科名	全学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	６月～７月
科目の概要	植物のバイオテクノロジーの基礎と組織培養や植物組織の観察等、講義と実験・演習を組み合わせて農業での応用について学ぶ。							
講師名	バイオテクノロジー技術指導員　阿久根治喜					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	○植物バイオが現代の農業、特に育種、病理、繁殖の分野にいかに貢献したかを理解させる。 ○実験を通し、施設設備の実際、培地の調整・作成、無菌操作の基本を身につける。							
使用教材	講師準備資料・植物材料・実験施設設備・実験器具・実験機器・試薬他							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	実験器具・実験機器・設備類の操作方法　手指の洗浄	1	場所：生物工学実験室 服装：白衣着用 資料：講師準備
	培地の作成　（ＭＳ培地・Ｈ培地・ＭＴ培地他）	2	
2	増殖培養　無菌操作の基本 カンショとオーキッドの継代培養	3	
3	実体顕微鏡の使い方	1	
	茎頂培養　カーネーションの茎頂培養	2	
4	メロンの不定胚誘導と観葉植物の葉片培養	3	
5	苗の順化：　カンショ・ラン・キンカンの順化及び鉢替え	2	
	評価試験	1	

授業時間外に必要な学修	○実験が主な授業であることから、全てを受講する事を基本とする。（公欠・病欠は除く） ○講義資料の復習と保管に取り組む。 ○農場現場での汚れを持ち込まない清潔な服装で実験に臨む。
再試験及び補習対象の実施基準	○管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	S204	微生物活用		学科名	全学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	４月～５月
科目の概要	植物のバイオテクノロジーの基礎と組織培養や植物組織の実験を通し、雑菌・殺菌・滅菌の重要性やメカニズムの基礎・基本を習得し、農大農場生産物を使い、微生物を活用した食品の加工を学ぶ。								
講師名	バイオテクノロジー技術指導員　阿久根治喜							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	○微生物を使った食品・醗酵食品の歴史、種類を理解する。 ○実験・実習を通し、微生物を使った食品製造を習得する。								
使用教材	講師準備資料・植物材料・実験施設設備・実験器具・実験機器・試薬他								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	実験器具・機械類の操作方法　手指の洗浄	1	生物工学実験室 (バイオ実験室)
	培地の作成　MS培地・H培地・YE培地	2	
	培地分注と滅菌操作（オートクレーブの働き・操作）		
2	麹を使った食品（講義）	1	生物工学実験室
	種麹づくり	2	調理室
	無菌操作（クリーンベンチ作業）		生物工学実験室
3	甘酒造り　仕込み	1	調理室
	天然酵母　発酵	2	生物工学実験室
	甘酒完成　試飲・食味確認		調理室
4	納豆作りと農大牛乳を使ったカスピ海ヨーグルト作り	1	調理室
	天然酵母を使ったパン作り	2	加工室
5	試食・食味検査（納豆、ヨーグルト、天然酵母を使ったパン）	2	調理室
	評価試験	1	生物工学実験室

授業時間外に必要な学修	○実験が主な授業であることから、全てを受講する事を基本とする。（公欠・病欠は除く） ○講義資料の復習と保管に取り組む。 ○それぞれの実験・実習にふさわしい適切で清潔な服装で実験に臨む。
再試験及び補習対象の実施基準	○管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	S205	商業簿記		学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	４月
科目の概要	複式簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕分け、減価償却と計算法、試算表と精算表、決算までの簿記の一連の流れを習得させる								
講師名	秋吉　佸氏						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	日商簿記３級取得を目指す								
使用教材	講師の指定する教材								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1､2	簿記の意義、記帳から決算までの流れ	2	4/22　2,3限目
3,4	貸借対照表の意味と構成	2	4/24　2,3限目
5,6	損益計算書の意味と構成	2	5/8　2,3限目
7,8	取引と勘定、帳簿	2	5/13　2,3限目
9,10	仕訳	2	5/15　2,3限目
11,12	〃	2	5/20　2,3限目
13,14	資産、負債、資本	2	5/22　2,3限目
15,16	〃	2	5/27　2,3限目
17,18	収益と費用	2	5/29　2,3限目
19,20	〃	2	6/3　2,3限目
21,22	〃	2	6/4　2,3限目
23,24	決算書作成	2	6/5　2,3限目
25,26	検定過去問題の実施および解説	2	6/10　2,3限目
27,28	〃	2	6/11　2,3限目
29,30	検定過去問題の実施および解説・**試験**	2	6/12　2,3限目

授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習 講師から出される課題
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	S206	会社経営		学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞ以外	学年	2年	学期	前期 後期
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	４月～１月
科目の概要	学生出資会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	畜産学科　フードビジネス専攻　主任技師　今吉里華							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○学生出資会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換会を行うとともに、レポートを作成して提出させる。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～６	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法の研究	6	
7～12	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法の実践	6	
13～18	学生出資会社に関する各組織ごとの運営状況の中間報告	6	
19～24	学生出資会社の新役員体制つくり　（１年生への引き継ぎ）	6	
25～30	学生出資会社の新役員体制つくり　（１年生への引き継ぎ）	6	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	S207	教育実習	学科名	全学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	６月
科目の概要	農業高校の農場実習助手の実習							
講師名	県内の農業高校						実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	農業高校の農場実習助手としての心構え、実務の概要を身につける							
使用教材	各指導者が準備する資料等							

成績評価					
	方法	研修日誌（20点）	研修報告書（30点）	研修評価書(30点)	出席（20点）
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 Ａ(良い)3点/1日 Ｂ(普通)2点/1日 Ｃ(悪い)0点/1日	・提出 提出有り：10点 提出無し： 0点 ・内容 ※提出のみ採点 Ａ(良い)20点 Ｂ(普通)10点 Ｃ(悪い) 5点	※講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
１日目 ～ ３日目	・研修先の事業概要について学ぶ。 ・実習や見学をとおして教科指導に関する知識や技術を学ぶ。	１８時間	・指導は実務経験のある職員に限定する。 ・説明等を講義形式で行う場合がある。
４日目 ～ ５日目	・実習や見学、講師等との意見交換をとおして、農場実習の実務について情報を収集する。	１２時間	
６日目 ～ 10日目	・実習や講師等との意見交換をとおして、農業教育・農場実習ののノウハウを会得する。	３０時間	
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。		

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A201	専攻実習(農学)		学科名	農学科	学年	２年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月～12月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。								
使用教材	講師準備資料								

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	各専攻で栽培する品目の生理生態的特性を理解し、栽培管理とプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
通年	各専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査	450	

授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A202	時間外実習		学科名	農学科	学年	２年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～10月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術と鮮度保持技術、出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	各専攻で栽培する品目の生理生態的特性を理解し、栽培管理とプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
通年	各専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得	120	

授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A203	作物の栽培管理	学科名	農学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月

科目の概要	・水稲、豆類,葉たばこ、露地野菜の特性と栽培技術の理論を学修する。 ・特に、水稲の重要な栽培技術である雑草防除、病害虫防除のための技術を中心に学修する。□
講師名	農業大学校指導職員　　実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	・水稲、豆類、葉たばこ、露地野菜の特性と栽培技術の理論を習得する。□
使用教材	作物学の基礎Ⅰ（農文教） 作物の病害虫診断（農文教） ミニ植物図鑑（全国農村教育協会） 講師準備資料

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理	1	
2	水稲栽培における雑草防除（雑草の種類、防除方法ほか）	1	
3	水稲栽培における雑草防除（除草剤）	1	
4	水稲栽培における病害虫防除（主要な病気と防除方法）	1	
5	水稲栽培における病害虫防除（主要な害虫と防除方法）	1	
6	水稲栽培における先進的な技術と経営（ＩＣＴ技術、経営費ほか）	1	
7	豆類の栽培（栽培方法、病害虫ほか）	1	
8	葉たばこ栽培（栽培方法、病害虫、加工ほか）	1	
9	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理	1	
10	露地野菜の栽培管理	1	
11	露地野菜の栽培管理	1	
12	露地野菜の栽培管理	1	
13	露地野菜の栽培管理	1	
14	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理	1	
15	試験	1	

授業時間外に必要な学修	特になし。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A204	施設野菜の栽培管理	学科名	農学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理							
講師名	農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内で栽培されている施設果菜類の栽培に関する知識を習得し、専攻実習で実践できるようにする。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	スイカの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
2	スイカの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
3	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
4	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
5	キュウリの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
6	キュウリの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
7	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
8	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
9	イチゴの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
10	イチゴの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
11	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
12	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	１時間	
13	野菜プロジェクト学習成果発表	１時間	
14	野菜プロジェクト学習成果発表	１時間	
15	試験	１時間	

授業時間外に必要な学修	特になし。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A205	花きの栽培管理	学科名	農学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理							
講師名	農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・プロジェクト学習に選定した品目の施肥、防除、鮮度保持対策が実践できる。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとのレポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持	1	
2	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持	1	
3	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持	1	
4	球根植物の球根養成方法と堀上、乾燥方法	1	
5	球根植物の球根養成方法と堀上、乾燥方法	1	
6	球根植物の球根養成方法と堀上、乾燥方法	1	
7	栄養繁殖品目の挿し芽方法と環境制御	1	
8	栄養繁殖品目の挿し芽方法と環境制御	1	
9	栄養繁殖品目の挿し芽方法と環境制御	1	
10	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法	1	
11	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法	1	
12	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法	1	
13	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法	1	
14	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法	1	
15	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法	1	

授業時間外に必要な学修	特になし。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A206	果樹の栽培管理	学科名	農学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理							
講師名	農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・プロジェクト学習に選定した品目の施肥、防除、出荷調整対策が実践できる。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとのレポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	果樹における病害虫管理（総論）	1	
2	マンゴーの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
3	マンゴーの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
4	みかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
5	みかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
6	ライチの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
7	ライチの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
8	きんかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
9	きんかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
10	日向夏の栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
11	日向夏の栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
12	ぶどうの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
13	ぶどうの栽培管理技術とプロジェクト学習成果	1	
14	果樹プロジェクト学習成果発表	1	
15	果樹プロジェクト学習成果発表	1	

授業時間外に必要な学修	特になし。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A207	茶の栽培管理	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～9月
科目の概要	・茶の栽培管理と加工技術について学ぶ。							
講師名	総合農業試験場茶業支場職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・茶の栽培管理や生育・収量調査及び病害虫の発生調査等などを通して、茶樹の生理生態と基本的な栽培技術を理解させる。							
使用教材	図解　茶生産の最新技術　製造編 講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	14時間の講義終了後、100点満点の評価試験を実施、得点の90%を評価点とする。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	茶の生育と茶園管理スケジュール	1	茶業支場支場長
2	茶の育苗・定植	1	茶業支場育種科
3	茶の幼木管理	1	茶業支場育種科
4	茶の摘採（被覆）	1	茶業支場栽培加工科
5	茶の収量・品質	1	茶業支場栽培加工科
6	茶の剪枝方法	1	茶業支場栽培加工科
7	茶の病害虫①	1	茶業支場栽培加工科
8	茶の病害虫②	1	茶業支場栽培加工科
9	茶の病害虫③	1	茶業支場栽培加工科
10	茶の病害虫防除①	1	茶業支場栽培加工科
11	茶の病害虫防除②	1	茶業支場栽培加工科
12	茶の施肥方法	1	茶業支場栽培加工科
13	茶の有機栽培他	1	茶業支場栽培加工科
14	茶の防霜対策	1	茶業支場栽培加工科
15	試験	1	茶業支場支場長

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験はしない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A208	茶の歴史・文化		学科名	農学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・お茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進を学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・お茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進の知識を習得させる。								
使用教材	日本茶検定公式テキスト日本茶のすべてがわかる本 講師準備資料								

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	お茶のプロフィール、成分、淹れ方	1	茶業支場支場長
2	お茶の健康増進①	1	茶業支場支場長
3	お茶の健康増進②	1	茶業支場支場長
4	お茶の歴史と文化①	1	茶業支場支場長
5	お茶の歴史と文化②	1	茶業支場支場長
6	本県の茶業史	1	茶業支場支場長
7	本県の茶業研究	1	茶業支場支場長
8	世界のお茶の生産・流通・消費	1	茶業支場支場長
9	日本のお茶の生産・流通・消費	1	茶業支場支場長
10	本県のお茶の生産・流通・消費	1	茶業支場支場長
11	お茶の品種育成①	1	茶業支場育種科
12	お茶の品種育成②	1	茶業支場育種科
13	お茶の品種①	1	茶業支場育種科
14	お茶の品種②	1	茶業支場育種科
15	試験	1	茶業支場支場長

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験を実施しない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A209	作物の流通・販売	学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月

科目の概要	・作物の流通・販売について実践的に学ぶ。
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者 実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	・国内外における果樹の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。
使用教材	各指導者が準備する資料

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし： 0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い） 0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	国内外の作物の流通・販売について	1	講義
2	国内外の作物の流通・販売について	1	講義
3	国内外の作物の流通・販売について	1	講義
4	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
5	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
6	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
7	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
8	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
9	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
10	作物の販売の実際	1	視察研修
11	作物の販売の実際	1	視察研修
12	作物の販売の実際	1	視察研修
13	作物の販売の実際	1	視察研修
14	作物の販売の実際	1	視察研修
15	作物の販売の実際	1	視察研修

授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A210	施設野菜の流通・販売	学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月

科目の概要	・野菜の流通・販売について実践的に学ぶ。
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者 実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	・国内外における野菜の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。
使用教材	各指導者が準備する資料

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし： 0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い） 0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	国内外の野菜の流通・販売について	1	講義
2	国内外の野菜の流通・販売について	1	講義
3	国内外の野菜の流通・販売について	1	講義
4	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
5	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
6	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
7	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
8	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
9	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
10	野菜の販売の実際	1	視察研修
11	野菜の販売の実際	1	視察研修
12	野菜の販売の実際	1	視察研修
13	野菜の販売の実際	1	視察研修
14	野菜の販売の実際	1	視察研修
15	野菜の販売の実際	1	視察研修

授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A211	花きの流通・販売		学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・花きの流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における花きの流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし：　0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い）　0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	国内外の花きの流通・販売について	1	講義
2	国内外の花きの流通・販売について	1	講義
3	国内外の花きの流通・販売について	1	講義
4	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
5	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
6	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
7	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
8	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
9	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
10	花きの販売の実際	1	視察研修
11	花きの販売の実際	1	視察研修
12	花きの販売の実際	1	視察研修
13	花きの販売の実際	1	視察研修
14	花きの販売の実際	1	視察研修
15	花きの販売の実際	1	視察研修

授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A212	果樹の流通・販売	学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月

科目の概要	・果樹の流通・販売について実践的に学ぶ。		
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・国内外における果樹の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。		
使用教材	各指導者が準備する資料		

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし： 0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い） 0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	国内外の果樹の流通・販売について	1	講義
2	国内外の果樹の流通・販売について	1	講義
3	国内外の果樹の流通・販売について	1	講義
4	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
5	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
6	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
7	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
8	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
9	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
10	果樹の販売の実際	1	視察研修
11	果樹の販売の実際	1	視察研修
12	果樹の販売の実際	1	視察研修
13	果樹の販売の実際	1	視察研修
14	果樹の販売の実際	1	視察研修
15	果樹の販売の実際	1	視察研修

授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A213	茶の流通・販売		学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・茶の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における茶の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし：　0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い）　0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	国内外の茶の流通・販売について	1	講義
2	国内外の茶の流通・販売について	1	講義
3	国内外の茶の流通・販売について	1	講義
4	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
5	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
6	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
7	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
8	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
9	市場・仲卸の役割と流通の実際	1	視察研修
10	茶の販売の実際	1	視察研修
11	茶の販売の実際	1	視察研修
12	茶の販売の実際	1	視察研修
13	茶の販売の実際	1	視察研修
14	茶の販売の実際	1	視察研修
15	茶の販売の実際	1	視察研修

授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A214	経営コンサルティング	学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～12月
科目の概要	・経営コンサルティングにおける基礎的な知識を学ぶ。							
講師名	農業経営支援課専門技術指導担当 農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・経営診断手法を身につける。							
使用教材	講師準備資料、宮崎県経営管理指針　等							

成績評価				
	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	レポートまたは試験等を実施し評価する。	実習に対する態度をA～Cの３段階で評価する。 A：興味関心を持って積極的に取り組んでいる(20点) B：普通に指示通り取り組んで着る(10点) C：意欲がない(0点)。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	経営分析とは（分析の必要性と手法）	10/13 8:50-9:50	農業経営支援課 専門技術指導担当 農業大学校指導職員
2	粗収益の求め方	10/22 10:00-12:10	
3	生産原価の求め方（種苗費、農薬費、肥料費）		
4	生産原価の求め方（諸材料費・小農具費）	10/29 10:00-12:10	
5	生産原価の求め方（燃料費、作業衣料費、保険共済費、地代）		
6	生産原価の求め方（償却費）	11/5 10:00-12:10	
7	生産原価の求め方（人件費）		
8	販売手数料の求め方	11/13 10:00-12:10	
9	所得の求め方		
10	個別経営の分析方法	11/20 10:00-12:10	
11	個別経営の診断		
12	個別経営の診断・経営シミュレーション	11/24 11:10-12:10	
13	法人経営の分析方法	11/30 13:10-15:20	
14	法人経営の診断・経営シミュレーション		
15	まとめ	12/10 10:00-11:00	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	育種と知的所有権			学科名	農学科	学年	1年・2年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・品種改良や新品種育種ついて学ぶ。 ・品種登録と種苗法について学ぶ。								
講師名	総合農業試験場 作物部研究員、野菜部研究員、花き部研究員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農産物の育種方法及び品種登録、種苗法について理解する。								
使用教材	・講師準備資料								

成績評価	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	新品種の作出、品種登録、種苗法 農業試験場で作出された品種と育成 試験①	9/8 13:10-15:20	総合農業試験場 花き部研究員
2			
3		9/15 13:10-15:20	
4			
5		10/6 13:10-15:20	
6			
7	作物の遺伝と育種、繁殖 農業試験場で作出された品種と育成 試験②	10/13 13:10-15:20	総合農業試験場 作物部研究員
8			
9		11/18 13:10-15:20	
10			
11		11/25 10:00-12:10	
12			
13	野菜の新品種と育成 農業試験場で作出された品種と育成 試験③	12/7 8:50-12:10	総合農業試験場 野菜部研究員
14			
15			
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。		

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A220	営農計画作成		学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～10月
科目の概要	・学生が実施したプロジェクトについて、売上や農薬費などを算出し、それをもとに、自分が栽培する品目について、経営的な基礎知識を学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・自身のプロジェクトにおいて経営的な観点から営農計画を作成する。								
使用教材	講師準備資料、宮崎県経営管理指針　等								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	提出（基礎点）20点 提出なし0点□ １）自身のプロジェクトの経営数字をまとめ、提出(35点) ２）卒業後に自分が栽培したい品目について、計画を作成(35点) ※内容は提出時に評価 A（良い）35点 B（普通）20点 C（悪い）10点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	営農計画作成方法について	9/2 11:10-12:10	農業大学校指導職員
2	プロジェクト内容の把握（売上・経費等）	9/4 10:00-12:10	
3	プロジェクト内容の把握（売上・経費等）		
4	プロジェクト内容の把握（売上・経費等）	9/8 11:10-12:10	
5	プロジェクト内容の把握（売上・経費等）	9/15 11:10-12:10	
6	プロジェクト内容の把握（売上・経費等）	9/16 13:10-15:20	
7	プロジェクト内容の把握（売上・経費等）		
8	経営概要（目標）設定	10/6 11:10-12:10	
9	経営概要（目標）設定	10/13 11:10-12:10	
10	作付け計画作成	10/15 10:00-12:10	
11	作付け計画作成		
12	経営収支作成	10/20 10:00-12:10	
13	経営収支作成		
14	経営収支作成	10/23 10:00-12:10	
15	経営収支作成・営農計画作成		
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準			

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	法人経営			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～9月
科目の概要	・法人経営の仕組みや制度について学ぶ。 ・現地研修において、法人経営の実際を学ぶ。								
講師名	県農業会議 農業法人 農業大学校 指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農業法人の仕組みや制度について学習するとともに、県内法人の講義や視察研修を通じて法人経営への理解を深める。								
使用教材	・講師準備資料								

成績評価	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	試験・レポートにより理解度を評価する。	受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	農業経営の法人化とメリット	6/19 10:00-12:10	農業会議 杉田氏
2	農業法人の種類と設立		
3	宮崎県内の農業法人の状況	6/26 10:00-12:10	
4	集落営農の法人化 試験		
5	農業法人における労務管理について	7/3 10:00-12:10	社会保険労務士など （未定）
6			
7	法人経営の実際（講義）	7/10 10:00-12:10	県内農業法人
8			
9	県内農業法人視察研修	9/11 8:50-16:30	県内農業法人 農業大学校指導職員
10			
11			
12			
13			
14			
15	まとめ・レポート	9/18 13:10-14:10	農業大学校指導職員
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。		

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A222	先進農業事例研究	学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	一般	単位数	１単位	時間数	１５時間	開講時期	９月～１２月
科目の概要	○先進的な農家、企業的農家の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。							
講師名	県内先進的農業者、農業法人等					実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	○先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。							
使用教材	各指導者が準備する資料							

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし： 0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い） 0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項	1	講義
2	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項	1	講義
3	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項	1	講義
4	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
5	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
6	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
7	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
8	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
9	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
10	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
11	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
12	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
13	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
14	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修
15	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ	1	視察研修

授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A223	農業指導演習		学科名	農学科	学年	２年	学期	前期・後期
授業の方法	演習	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～12月
科目の概要	・２年生がプロジェクト学習に選定した品目の栽培管理について指導できるよう演習する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・２年生がプロジェクト学習に選定した品目の栽培特性や栽培管理を１年生に指導できる。								
使用教材	講師準備資料								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理を理解し、１年生に適切に指導できているかをチェックし、100点満点の評価を行うが90％を評価点とする。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	農業指導演習方法と注意事項	1	
2	農業指導演習方法と注意事項	1	
3	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
4	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
5	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
6	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
7	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
8	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
9	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
10	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
11	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
12	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
13	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
14	２年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を１年生に指導	1	
15	農業指導演習の反省と助言	1	

授業時間外に必要な学修	特になし。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	A224	スマート農業(活用)	学科名	農学科	学年	１年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～9月

科目の概要	・スマート農業の現状を認識する。 ・現地での実践的な取組を学ぶとともに、経営的な視点から技術の仕組みを学ぶ。
講師名	宮崎大学講師、農業法人経営者、各メーカー担当者、 農業大学校指導職員
実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・メーカーや農業法人との連携により、スマート農機を活用した栽培技術を習得する。
使用教材	・講師準備資料

成績評価				
	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	各講座ごとにレポートにて理解度を評価する。	受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1 2 3	スマート農業の現状と今後の展開 ・ＩＣＴ技術の進化と生活・産業面での普及 ・ＡＩ・ロボット技術の進化によるスマート農業の今後の展開	7/2 8:50-12:10	宮崎大学 槐島准教授
4 5	スマート農業の実践①農業経営のスマート化 ・ＩＣＴを活用した農業経営管理技術の効率化	7/9 10:00-12:10	株式会社 synergy farm
6 7	スマート農業の実践②農作業のスマート化 ・フィールドマン（栽培管理システム）・フィールドサーバーを活用した農業経営管理技術 ・ロボットトラクター等大型農機等の一環経営技術	7/16 10:00-12:10	株式会社 ジェイエイフーズ みやざき
8 9	スマート農業の実践③農業用ドローンについて ・産業用ドローンの開発状況と活用事例 ・ドローンによる農薬散布・センシング実演	7/30 10:00-12:10	農大校指導職員
10 11	スマート農業の実践④ロボット等高性能農業機械について ・ロボット等高性能農業機械の開発状況と活用事例 ・自動運転・精密農業を支える機構と今後の展開 ・ロボット等高性能農業機械の実演	9/3 10:00-12:10	ヤンマーアグリジャパン
12 13	スマート農業の実践⑤農業用施設の環境制御技術について ・施設園芸ハウスの複合環境制御法とその効果	9/10 10:00-12:10	富士通九州システムズ
14 15	スマート農業の実践⑥ＩｏＴを活用した集出荷施設について ・非破壊専科技術とその効果 ・異物除去技術とそのリスク	9/17 10:00-12:10	選果機メーカー

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則、実施しない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z201	専攻実習		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	14	時間数	420	開講時期	４月～１２月

科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。		
講師名	・農業大学校指導職員：来間大志、谷口美津子、佐藤登士夫、西礼華	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術を習得する。		
使用教材	・講師作成資料		

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

回	内　　容	時間	備　考
1～60	家畜の飼養管理等	60	４月
61～120	家畜の飼養管理等	60	５月
121～180	家畜の飼養管理等	60	６月
181～240	家畜の飼養管理等	60	７月
241～260	家畜の飼養管理等	20	８月
261～320	家畜の飼養管理等	60	９月
321～380	家畜の飼養管理等	60	１０月
381～400	家畜の飼養管理等	20	１１月
401～420	家畜の飼養管理等	20	１２月

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z202- 牛･豚	時間外実習 （肉用牛・養豚）	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	４月～１２月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を行う。							
講師名	・農業大学校指導職員：来間大志、佐藤登士夫、西礼華 ・畜産試験場川南支場養豚科					実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。							
使用教材	・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～20	家畜の飼養管理等	20	４月
21～40	家畜の飼養管理等	20	５月
41～60	家畜の飼養管理等	20	６月
61～80	家畜の飼養管理等	20	７月
81～85	家畜の飼養管理等	5	８月
86～90	家畜の飼養管理等	5	９月
91～110	家畜の飼養管理等	20	１０月
111～115	家畜の飼養管理等	5	１１月
116～120	家畜の飼養管理等	5	１２月

授業時間外に必要な学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z203	時間外実習 (酪農)	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	7	時間数	210	開講時期	４月～１２月
科目の概要	・乳牛の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を行う。							
講師名	・農業大学校指導職員：谷口美津子、西礼華					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・乳牛の搾乳や飼養管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。							
使用教材	・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	乳牛の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～10	乳牛の飼養管理等	10	７月
11～35	乳牛の飼養管理等	25	８月
36～60	乳牛の飼養管理等	25	９月
61～85	乳牛の飼養管理等	25	１０月
86～110	乳牛の飼養管理等	25	１１月
111～135	乳牛の飼養管理等	25	１２月
136～160	乳牛の飼養管理等	25	１月
161～185	乳牛の飼養管理等	25	２月
186～210	乳牛の飼養管理等	25	３月

授業時間外に必要な学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z204	肉用牛・酪農経営コンサルティング	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	９月～１２月

科目の概要	・肉用牛、酪農経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、経営分析指標等と比較し経営診断する技法を学ぶ。
講師名	・農業経営支援課：農業経営支援課、肉用牛専技（１～３）酪農専技（４～６）、畜産協会：（７～１５） 実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	・肉用牛、酪農経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描き、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案する。
使用教材	・講師作成資料

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	肉用牛経営における経営事例研究	9/3 ①,②,③ 8:50～12:10	担当講師：農業経営支援課、肉用牛専技
2	肉用牛経営における経営事例研究		
3	肉用牛経営における経営事例研究　試験①		
4	酪農経営における経営事例研究	9/10 ①,②,③ 8:50～12:10	担当講師：農業経営支援課、酪農専技
5	酪農経営における経営事例研究		
6	酪農経営における経営事例研究　試験②		
7	肉用牛経営の分析と診断	11/10 ①,② 8:50～11:00	担当講師：畜産協会
8	肉用牛経営の分析と診断		
9	肉用牛経営の分析と診断	11/16 ①,②, ③ 8:50～12:10	
10	肉用牛経営の分析と診断		
11	肉用牛経営の分析と診断　試験③		
12	酪農経営の分析と診断	11/25 ②,③ 10:00～12:10	
13	酪農経営の分析と診断		
14	酪農経営の分析と診断	12/1 ①,② 8:50～11:00	
15	酪農経営の分析と診断　試験④		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z206	養豚経営 コンサルティング	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	４月～７月
科目の概要	・養豚経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、また、養豚経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描かせ、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案させる。							
講師名	・学識経験者：前畑　嘉里　氏(1～１０) ・農業大学校指導職員：西　礼華（１１～15）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・経営分析指標等と比較し経営診断する能力を習得させる。							
使用教材	・養豚の教科書 ・わかりやすい養豚場実用ハンドブック ・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	養豚経営の分析・診断　事例研究	1	担当講師：学識経験者 前畑　嘉里　氏
2	養豚経営の分析・診断　事例研究	1	
3	養豚経営の分析・診断　事例研究	1	
4	養豚経営の分析・診断　事例研究	1	
5	養豚経営の分析・診断　事例研究	1	
6	養豚経営の分析・診断　事例研究	1	
7	養豚経営の分析・診断　事例研究	1	
8	養豚経営の分析・診断　事例研究	1	
9	養豚経営の分析・診断　事例研究	1	
10	試験①	1	
11	経営計画の重要性、目的	1	担当講師:西
12	営農計画の年次的重点、基本的考え方	1	
13	営農設計の作成手順、内容	1	
14	年次別家畜の飼養計画内訳	1	
15	営農計画成果品提出	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z207	肉用牛経営の事例研究	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	１０月～１１月
科目の概要	・県内外の肉用牛繁殖及び肥育経営について、優良・最新事例の現地調査を実施する。							
講師名	・農業大学校指導職員：来間　太志・佐藤　登士夫					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内外の肉用牛繁殖及び肥育経営について、優良・最新事例の現地調査を実施し、施設や生産管理システムについての知識を習得する。							
使用教材	・講師作成資料							

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし：　0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い）　0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	視察や調査中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	枝肉共進会	10/27 ①,②,③ 8:50～12:10	担当講師：来間、佐藤
2	枝肉共進会		
3	枝肉共進会　試験①		
4	全国ホルスタイン共進会	10/27 ①,②,③,④,⑤,⑥ 8:50～16:30	
5	全国ホルスタイン共進会		
6	全国ホルスタイン共進会		
7	全国ホルスタイン共進会		
8	全国ホルスタイン共進会		
9	全国ホルスタイン共進会　試験②		
10	肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）①	11/19 ①,②,③,④,⑤,⑥ 8:50～16:30	
11	肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）①		
12	肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）①　試験③		
13	繁殖経営の優良・最新事例研究（校外学習）①		
14	繁殖経営の優良・最新事例研究（校外学習）①		
15	繁殖経営の優良・最新事例研究（校外学習）①　試験④		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z208	酪農経営の事例研究	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	１０月～１１月
科目の概要	・県内外の酪農経営について、優良・最新事例の現地調査を実施する。							
講師名	・農業大学校指導職員：谷口　美津子、西　礼華					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内外の酪農経営について、優良･最新事例の現地調査を実施し施設や生産管理システムについての知識を習得する。							
使用教材	・講師作成資料							

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし： 0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い） 0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	視察や調査中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	枝肉共進会	10/27 ①,②,③ 8:50～12:10	担当講師：谷口、西
2	枝肉共進会		
3	枝肉共進会　試験①		
4	全国ホルスタイン共進会	10/27 ①,②,③,④,⑤,⑥ 8:50～16:30	
5	全国ホルスタイン共進会		
6	全国ホルスタイン共進会		
7	全国ホルスタイン共進会		
8	全国ホルスタイン共進会		
9	全国ホルスタイン共進会　試験②		
10	酪農経営の優良・最新事例研究（校外学習）①	11/19 ①,②,③,④,⑤,⑥ 8:50～16:30	
11	酪農経営の優良・最新事例研究（校外学習）①		
12	酪農経営の優良・最新事例研究（校外学習）①　試験③		
13	酪農経営の優良・最新事例研究（校外学習）②		
14	酪農経営の優良・最新事例研究（校外学習）②		
15	酪農経営の優良・最新事例研究（校外学習）②　試験④		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z209	養豚経営の事例研究	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	１０月～１１月
科目の概要	・県内外の肉用牛繁殖及び肥育経営について、優良・最新事例の現地調査を実施する。							
講師名	・農業大学校指導職員：来間　太志・佐藤　登士夫					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内外の肉用牛繁殖及び肥育経営について、優良・最新事例の現地調査を実施し、施設や生産管理システムを習得する。							
使用教材	・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。	受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	枝肉共進会	10/27 ①,②,③ 8:50～12:10	担当講師：来間、佐藤
2	枝肉共進会		
3	枝肉共進会　試験①		
4	全国ホルスタイン共進会	10/27 ①,②,③,④,⑤,⑥ 8:50～16:30	
5	全国ホルスタイン共進会		
6	全国ホルスタイン共進会		
7	全国ホルスタイン共進会		
8	全国ホルスタイン共進会		
9	全国ホルスタイン共進会　試験②		
10	肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）①	11/19 ①,②,③,④,⑤,⑥ 8:50～16:30	
11	肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）①		
12	肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）①　試験③		
13	繁殖経営の優良・最新事例研究（校外学習）①		
14	繁殖経営の優良・最新事例研究（校外学習）①		
15	繁殖経営の優良・最新事例研究（校外学習）①　試験④		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z210	肉用牛の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	９月～１２月
科目の概要	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、肉用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。							
講師名	・農業大学校指導職員：来間　太志・佐藤　登士夫（１～１２），畜産試験場肉用牛部（１３～１５）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で肉用牛の飼養管理技術について知識・技術を習得させるとともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。							
使用教材	・日本標準飼料分析表、日本飼養標準（肉用牛）、講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	繁殖及び肥育経営技術①	7/14 ②,③	担当講師：来間、佐藤
2	繁殖及び肥育経営技術②		
3	繁殖及び肥育経営技術③	7/21 ②,③	
4	繁殖及び肥育経営技術④		
5	繁殖及び肥育経営技術⑤	7/28 ②,③	
6	繁殖及び肥育経営技術⑥		
7	繁殖及び肥育経営技術⑦	9/8 ①,②	
8	繁殖及び肥育経営技術⑧		
9	繁殖及び肥育経営技術⑨	9/11 ①,②	
10	繁殖及び肥育経営技術⑩		
11	繁殖及び肥育経営技術⑪	9/15 ①,②	
12	試験①		
13	肉用牛の最新の試験研究と成果①	9/4 ①,②,③ 8:50～12:10	担当講師：畜産試験場肉用牛部
14	肉用牛の最新の試験研究と成果②		
15	試験②		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z211	乳用牛の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	９月～１２月
科目の概要	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。							
講師名	・農業大学校指導職員：谷口美津子、西礼華（１～１２）、畜産試験場酪農飼料部（１３～１５）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。							
使用教材	・日本標準飼料分析表、日本飼養標準（乳用牛）、講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	酪農経営の飼養管理技術①	7/14 ②,③	担当講師：谷口、西
2	酪農経営の飼養管理技術②		
3	酪農経営の飼養管理技術③	7/21 ②,③	
4	酪農経営の飼養管理技術④		
5	酪農経営の飼養管理技術⑤	7/28 ②,③	
6	酪農経営の飼養管理技術⑥		
7	酪農経営の飼養管理技術⑦	9/8 ①,②	
8	酪農経営の飼養管理技術⑧		
9	酪農経営の飼養管理技術⑨	9/11 ①,②	
10	酪農経営の飼養管理技術⑩		
11	酪農経営の飼養管理技術⑪	9/15 ①,②	
12	試験①		
13	乳用牛の最新の試験研究と成果①	9/4 ①,②,③ 8:50～12:10	担当講師：畜産試験場酪農飼料部
14	乳用牛の最新の試験研究と成果②		
15	試験②		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z212	豚の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	４月～７月

科目の概要	・母豚の繁殖、子豚及び肥育豚の一般的な飼養管理体系とともに最新の試験研究成果を学ぶ。
講師名	・農業大学校指導職員：西 礼華（1～6） ・宮崎大学：家入　誠二氏（7～9）、川島　知之氏（10～12） ・畜試川南：養豚科科長（13～15） 実務経験のある教員等による授業科目：
到達目標	・飼養管理体系及び最新の試験研究の知識を習得する。
使用教材	・養豚の教科書 ・講師作成資料

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとのレポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	種雌豚の繁殖管理（基本管理、発情・交配適期、妊娠鑑定等）	1	担当講師：西
2	種雌豚の繁殖管理（基本管理、繁殖サイクル、人工授精等）	1	
3	候補豚の管理（馴致手法、母豚群免疫安定化、候補豚選抜等）	1	
4	哺乳豚の管理（基本管理、ワクチン・抗生剤、ＡＩ・ＡＯ等）	1	
5	肥育豚の管理（基本管理、疾病管理等）	1	
6	試験①	1	
7	豚の選抜、交配及び能力検定	1	担当講師：宮崎大学 家入　誠二　氏
8	豚の選抜、交配及び能力検定	1	
9	試験②	1	
10	高付加価値豚肉生産及びエコフィード活用の事例の実際	1	担当講師：宮崎大学 川島　知之氏
11	高付加価値豚肉生産及びエコフィード活用の事例の実際	1	
12	試験③	1	
13	豚に関する最新の試験研究と成果　　場所:畜産試験場川南支場	1	担当講師：川南支場 養豚科科長
14	豚に関する最新の試験研究と成果	1	
15	試験④	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z213	肉用牛の飼料設計	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	９月～１１月
科目の概要	・パソコンを活用した肉用牛の飼料給与設計を習得し、効率的、効果的な飼料給与の理論を学ぶ。							
講師名	・農業大学校指導職員：来間　太志、佐藤　登士夫					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・飼料設計の理論を習得し、給与設計、診断の技術を習得する。							
使用教材	・日本標準飼料分析表 ・日本飼養標準（肉用牛） ・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	繁殖牛の養分要求量	9/23 ①,②	担当講師：来間、佐藤
2	肥育牛の養分要求量		
3	育成牛の養分要求量	10/6 ①,②	
4	子牛の養分要求量		
5	飼料の成分特性と選択	10/13 ①,②	
6	ＰＣ操作の基本事項		
7	繁殖牛の養分要求量の計算①	10/21 ②,③	
8	繁殖牛の養分要求量の計算②		
9	肥育牛の養分要求量の計算①	10/26 ②,③	
10	肥育牛の養分要求量の計算②		
11	育成牛の養分要求量の計算①	10/30 ②,③	
12	育成牛の養分要求量の計算②		
13	子牛の養分要求量の計算①	11/2 ②,③	
14	子牛の養分要求量の計算②		
15	試験①	11/9②	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	乳用牛の飼料設計			学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	９月～１１月
科目の概要	・パソコンを活用した乳用牛の飼料給与設計を習得し、効率的、効果的な飼料給与の理論を学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：谷口美津子、西礼華						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・飼料設計の理論を習得し、給与設計、診断の技術を習得する。								
使用教材	・日本標準飼料分析表 ・日本飼養標準（乳用牛） ・講師作成資料								

成績評価	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。	受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	搾乳牛の養分要求量	9/23 ①,②	担当講師：谷口、西
2	乾乳牛の養分要求量		
3	育成牛の養分要求量	10/6 ①,②	
4	子牛の養分要求量		
5	飼料の成分特性と選択	10/13 ①,②	
6	ＰＣ操作の基本事項		
7	搾乳牛の養分要求量の計算①	10/21 ②,③	
8	搾乳牛の養分要求量の計算②		
9	乾乳牛の養分要求量の計算①	10/26 ②,③	
10	乾乳牛の養分要求量の計算②		
11	育成牛の養分要求量の計算①	10/30 ②,③	
12	育成牛の養分要求量の計算②		
13	子牛の養分要求量の計算①	11/2 ②,③	
14	子牛の養分要求量の計算②		
15	試験①	11/9②	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z215	豚の疾病と衛生	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	４月～７月
科目の概要	・豚疾病の種類とその予防・治療方法及び養豚現場におけるバイオセキュリティ対策について学ぶ。							
講師名	・宮崎家畜保健衛生所：衛生指導担当リーダー（１～３） ・ＮＯＳＡＩ連宮崎生産獣医療センター：辻 厚史氏6、嶋田誠司氏4、遠矢良平氏2（４～１５）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・繁殖性向上のための最新の考え方を習得する。							
使用教材	・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際	1	担当講師： 宮崎家畜保健衛生所 衛生指導担当リーダー
2	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際	1	
3	試験①	1	
4	豚疾病の種類	1	担当講師：NOSAI連宮崎 辻 厚史　氏 嶋田誠司　氏 遠矢良平　氏
5	豚疾病の種類	1	
6	豚疾病の予防	1	
7	豚疾病の予防	1	
8	豚疾病の治療	1	
9	豚疾病の治療	1	
10	豚繁殖性向上対策（豚の繁殖サイクル）	1	
11	豚繁殖性向上対策（繁殖性向上のための飼養管理）	1	
12	豚繁殖性向上対策（繁殖性向上のための飼養管理）	1	
13	豚繁殖性向上対策（繁殖豚の台帳管理、見える化）	1	
14	豚繁殖性向上対策（繁殖障害の原因と改善方法）	1	
15	試験②	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z216	育種と繁殖Ⅱ（その２）	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	４月～７月
科目の概要	・育種では、家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容を学ぶ。繁殖では繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみとともに、家畜人工授精技術について学ぶ。							
講師名	・農業大学校指導職員：佐藤　登士夫（１～５）、西　礼華（６～１４）、垂水　啓二郎（１５～２２）、谷口　美津子（２３～３０）					実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。							
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容	時間	備　考
16	精子生理（精子の形成と成熟） ●〈精子生理〉精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状	5/29①	担当講師：垂水
17	精子生理（精子の形成と成熟） ●〈精子生理〉精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状	6/2①	
18	精子生理（精子の形態と機能） ●〈精子生理〉精子の形態及び構造	6/5①	
19	精子生理（精子の形態と機能） ●〈精子生理〉精子の機能	6/9②	
20	精子生理（精子の形態と機能） ●〈精子生理〉精液性状及び精子機能に関与する要因	6/12①	
21	精子生理（交尾・射精と精液） ●〈繁殖生理〉射精の機序	6/18②,③	
22	試験③ ●〈精子生理〉		
23	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法	6/25②,③	担当講師：谷口
24	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法		
25	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法	7/16②,③	
26	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法		
27	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法	7/22②,③	
28	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法		
29	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法	7/29②,③	
30	試験④ ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z216	育種と繁殖Ⅱ（その１）	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	４月～７月
科目の概要	・育種では、家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容を学ぶ。繁殖では繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみとともに、家畜人工授精技術について学ぶ。							
講師名	・農業大学校指導職員：佐藤　登士夫（１～５）、西　礼華（６～１４）、　垂水　啓二郎（１５～２２）、谷口　美津子（２３～３０）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。							
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容	時間	備　考
1	神経・内分泌（内分泌概論） ●〈繁殖生理〉繁殖機能に係るホルモン及び神経	4/13②,③	担当講師：佐藤
2	神経・内分泌（内分泌概論） ●〈繁殖生理〉繁殖機能に係るホルモン及び神経		
3	神経・内分泌（繁殖に関連する主なホルモン） ●〈繁殖生理〉性ホルモンの種類及び作用	4/17②,③	
4	神経・内分泌（繁殖に関連する主なホルモン） ●〈繁殖生理〉性ホルモンの種類及び作用		
5	試験① ●〈繁殖生理〉	4/20①	
6	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈繁殖生理〉繁殖の周期性及び性成熟	4/21①	担当講師：西
7	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈繁殖生理〉繁殖の周期性及び性成熟	4/24①	
8	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈繁殖生理〉発情周期に伴う生殖器及び行動の変化	4/27①	
9	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈繁殖生理〉発情周期に伴う生殖器及び行動の変化	4/30①	
10	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈種付け理論〉授精（交配）適期	5/7①	
11	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈種付け理論〉授精（交配）適期	5/11①	
12	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈種付けの理論〉（妊娠と分娩）雌生殖器内における精子及び卵子の移動並び	5/15①	
13	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈繁殖生理〉受精及び受精卵の発育	5/18①	
14	試験② ●〈種付けの理論〉（妊娠と分娩）	5/21①	
15	精子生理（性成熟と繁殖供用） ●〈精子生理〉精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状	5/26①	担当講師：垂水

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z217	家畜の衛生と環境	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前・後期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	６月～１１月
科目の概要	・家畜の飼養管理上基礎となる家畜衛生の意義と疾病診断、予防について学ぶ。また、畜産環境を取り巻く現状と課題、家畜排せつ物処理技術とともに環境と調和した資源循環型畜産の意義と重要性を学ぶ							
講師名	・家畜防疫対策課：防疫指導担当（１～５） ・宮崎家畜保健衛生所：病性鑑定課（６～１０） ・畜産試験場川南支場：環境衛生科（１１～１５）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜衛生及び畜産環境の情勢と課題及びその対策技術に関する知識を習得する。							
使用教材	・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	世界及び日本における疾病の発生状況と防疫体制	11/4 ②,③ 10:00～12:10	担当講師：家畜防疫対策課 防疫指導担当
2	世界及び日本における疾病の発生状況と防疫体制		
3	宮崎県における疾病の発生状況と防疫体制	11/6 ①,②,③ 8:50～12:10	
4	宮崎県における疾病の発生状況と防疫体制		
5	試験①		
6	家畜衛生の目的と疾病対策	6/15 ①,② 8:50～11:00	担当講師：宮崎家畜保健衛生所 病性鑑定課
7	家畜衛生の目的と疾病対策		
8	疾病の簡易診断法と予防接種	6/22 ①,②,③ 8:50～12:10	
9	疾病の簡易診断法と予防接種		
10	試験②		
11	家畜排せつ物の適正処理と利用	7/8 ②,③ 10:00～12:10	担当講師：川南支場 環境衛生科
12	堆肥化処理技術と施設		
13	汚水処理技術と施設	7/10 ①,②,③ 8:50～12:10	
14	悪臭対策		
15	試験③		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z218	家畜の解剖	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	６月～７月
科目の概要	・家畜の体の構造について骨格、筋肉、臓器について総括的に理解させるとともに、削蹄を行う上で必要な肢蹄の解剖学を学ぶ。							
講師名	・宮崎大学：保田昌宏 氏（１～１０）, 農業大学校指導職員：谷口 美津子（１１～１５）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の体の構造について理解する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。							
使用教材	・家畜人工授精テキスト ・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容	時間	備　考
1	家畜の骨格	6/16（火） ②,③ 10:00～12:10	担当講師：宮崎大学 保田昌宏　氏
2	家畜の骨格		
3	家畜の骨格	6/23（火） ②,③ 10:00～12:10	
4	家畜の筋肉		
5	家畜の筋肉	6/25（木） ②,③ 10:00～12:10	
6	家畜の臓器		
7	家畜の臓器	6/30（火） ②,③ 10:00～12:10	
8	家畜の肢蹄の構造		
9	家畜の肢蹄の構造	7/2（木） ②,③ 10:00～12:10	
10	試験①		
11	生殖器解剖（生殖器の分類と発生） ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成	7/1 ②,③	担当講師：谷口
12	生殖器解剖（生殖器の分類と発生） ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成		
13	生殖器解剖（生殖器の形態及び機能） ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能	7/7 ①,②,③	
14	生殖器解剖（生殖器の形態及び機能） ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能		
15	試験② ●〈生殖器解剖〉		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z219	畜産の新技術		学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義・演習	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	９月～１２月
科目の概要	・畜産における新技術開発の現状や課題について理解させるとともに、バイオテクノロジーの歴史、技術の意義、採卵、検卵、移植までの一連の知識と技術に加え、宮崎県における受精卵移植技術の利用と普及状況について学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：谷口 美津子（４～６） ・畜産試験場：研究企画主幹（１～３）、家畜バイテク部（７～１５）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産における新技術や受精卵移植に関する知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	畜産における新技術開発の現状と課題（大家畜）	11/13 8:50～12:10	担当講師：畜産試験場 研究企画主幹
2	畜産における新技術開発の現状と課題（飼料、豚）		
3	畜産における新技術開発の現状と課題（鶏、家畜排せつ物） 試験①		
4	体内受精卵移植技術の沿革と制度、県内における歴史と普及	11/17②	担当講師：谷口
5	体内受精卵移植技術の実際の手順（採取、処理、移植）	11/24①,②	
6	体外受精卵移植技術の概要 試験②		
7	受精卵の採卵（演習）	11/17 ①,②,③ 13:10～16:30	担当講師：畜産試験場 家畜バイテク部
8	受精卵の採卵（演習）		
9	受精卵の採卵（演習）		
10	受精卵の採卵（演習）	11/18 ①,②,③ 13:10～16:30	
11	受精卵の採卵（演習）		
12	受精卵の採卵（演習）		
13	受精卵の採卵（演習）	11/24 ①,②,③ 13:10～16:30	
14	受精卵の採卵（演習）		
15	試験③		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z220	畜産物の加工と流通	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義・演習	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	９月～１１月
科目の概要	・食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴及び県産畜産物流通の現状と課題について学ぶ。また、乳肉製品の製造演習を通して、各段階での乳及び食肉の変化や理論を学ぶ。							
講師名	・宮崎大学：河原聡氏（１～３）、(株)ミヤチク：福嶋能之氏（４～９）、南日本酪農協同(株)：竹藤春香氏、大山紗矢氏（１０～１５）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・乳肉加工の製造の基礎を習得する。							
使用教材	・講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴	11/20 ①,②,③ 8:50～12:10	担当講師：宮崎大学 河原聡　氏
2	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴		
3	試験①		
4	肉加工品の製造（演習）　場所：調理室、肉加工室	11/11 ②,③ 10:00～12:10	担当講師： (株)ミヤチク 福嶋能之　氏
5	肉加工品の製造（演習）		
6	肉加工品の製造（演習）	11/12 ①,②,③,④ 8:50～12:10 13:10～14:10	
7	肉加工品の製造（演習）		
8	肉加工品の製造（演習）		
9	試験②		
10	乳加工品の製造（演習）　場所：調理室	10/16 ①,②,③, ④,⑤,⑥ 8:50～12:10 13:10～16:30	担当講師： 南日本酪農協同(株) 竹藤春香　氏 大山紗矢　氏
11	乳加工品の製造（演習）		
12	乳加工品の製造（演習）		
13	乳加工品の製造（演習）		
14	乳加工品の製造（演習）		
15	試験③		

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	Z221	削蹄実習	学科名	畜産学科	学年	2	学期	前期
授業の方法	実習	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	７月～８月

科目の概要	・家畜の削蹄の必要性とともに削蹄技術を学ぶ。		
講師名	・宮崎県削蹄師協会：宮窪悦男、公益社団法人日本装削蹄協会	実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	・削蹄の技術を習得する。 ・２級認定削蹄資格を取得する。		
使用教材	・牛削蹄入門 ・講師準備資料		

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	講習会試験の採点による。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	削蹄の基礎について	1	担当講師：宮崎県削蹄師協会・宮窪悦男
2	削蹄の基礎について	1	
3	削蹄実習	1	
4	削蹄実習	1	
5	削蹄実習	1	
6	削蹄実習	1	
7	削蹄実習	1	
8	削蹄実習	1	
9	削蹄実習	1	
10	削蹄実習	1	担当講師：日本装削蹄師協会 （削蹄講習会）
11	削蹄実習	1	
12	削蹄基礎知識	1	
13	削蹄基礎知識	1	
14	基礎削蹄実習	1	
15	基礎削蹄実習	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則して補習は実施しない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F201	専攻実習		学科名	農学科 畜産学科	学年	2	学期	前期 後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	４月～１月
科目の概要	農産物、畜産物を様々な手法を使って加工を行い、加工に関する基礎知識と技術を学ぶ。								
講師名	畜産学科　フードビジネス専攻　主任技師　　今吉里華						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	○農産物、畜産物の加工技術を習得する。 ○食品に関する基礎知識を身につけ、加工から販売までの一連の流れを理解する。								
使用教材	食品製造実習関連資料								

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して加工知識の習得を判断する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。

回	内　　容	時間	備　考
5	食品衛生管理に関する基礎知識	5	
51	農大産の作物を使った焼き菓子（マドレーヌ、パウンドケーキ等）製造	51	
42	農大産の作物を使ったジャム類（イチゴ、マーマレード等）の製造	42	
86	農大産の牛乳を使ったアイスクリームの製造	86	
43	農大産の畜産物使ったハム、ベーコン、ソーセージ製造	43	
43	プロジェクト学習に関連した加工実習	43	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F202	時間外実習	学科名	農学科	学年	2	学期	前・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～12月
科目の概要	フードビジネス専攻において、必要な資格取得に関する学習や学生出資会社の販売実習、専攻での特別講義等を行う							
講師名	各種資格取得先講師 農業大学校　職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各種資格取得のための講習・各種イベント等への参加や資格の取得を通じて学生の技術向上を図る							
使用教材	資格取得のためのテキスト							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	各種資格取得のための講習・各種イベント等への参加や資格の取得を通じて、必要な知識の習得状況を判断する	講師の採点・資格取得実績による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

月	内　　容	時間	備　考
4	時間外実習	15	
5	時間外実習	15	
6	時間外実習	15	
7	時間外実習	15	
8	時間外実習	15	
9	時間外実習	15	
10	時間外実習	15	
11	時間外実習	15	
12	時間外実習	15	

授業時間外に必要な学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F203	食品関連企業実習	学科名	全体	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	９月～３月
科目の概要	食品関連企業での実習を通じて、農大では出来ない高度な加工技術や商品開発について知る							
講師名	農業大学校　農学科フードビジネス専攻　甲斐紀子					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品関連企業での実習を通じて、農大では出来ない高度な加工技術や商品開発について知見や経験を深める。							
使用教材	各企業,各企業に関する資料							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	各実習や商品開発を通して加工知識の習得を判断する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	食品加工業での実習（実習前の心構えについても含む）	6	
2	食品加工業での実習	6	
3	食品加工業での実習	6	
4	食品加工業での実習	6	
5	食品加工業での実習	6	
6	食品加工業での実習	6	
7	食品加工業での実習	6	
8	食品加工業での実習	6	
9	食品加工業での実習	6	
10	食品加工業での実習	6	
11	食品加工業での実習	6	
12	食品加工業での実習	6	
13	食品加工業での実習	6	
14	食品加工業での実習	6	
15	食品加工業での実習	6	

授業時間外に必要な学修	この実習目的を十分に把握し、実習先の食品加工業の業績や内容を情報収集し、熟知する。
再試験及び補習対象の実施基準	食品関連企業からの評価表、毎日記入する実習レポートの内容が不十分な者については、課題を与え、レポート再提出させ、再評価する。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F204	会社経営		学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ	学年	2	学期	前期 後期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	４月～１月
科目の概要	農大の学生出資会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	畜産学科　フードビジネス専攻　主任技師　今吉里華						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○学生出資会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし： 0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い） 0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～６	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法の研究	6	
7～12	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法の実践	6	
13～18	学生出資会社に関する各組織ごとの運営状況の中間報告	6	
19～24	学生出資会社の新役員体制つくり　（１年生への引き継ぎ）	6	
25～30	学生出資会社の新役員体制つくり　（１年生への引き継ぎ）	6	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F205	食品化学	学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ	学年	2年	学期	前期 後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
科目の概要	商品開発時に必要な製造工程の管理や食品の専門機関（食品開発センター）で実施されている官能評価等について知識を深め、安全で美味しい商品開発に関する知識を深める。また、実際に開発した商品の科学的根拠を測定するための機器の取扱い方法、商品規格書にまとめ販路拡大に役立てるための手法を学ぶ。							
講師名	外部講師　食品開発センター 外部講師　福山　明子 農学科　フードビジネス専攻　教授　松葉　久美					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	製造工程管理のための科学的根拠をするための測定機器の取扱方法、商品規格書の作成手法、官能評価方法など基礎的な知識を身につける。							
使用教材	講師からの配付資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	商品開発時の品質管理	1	外部講師
2	水分活性と微生物の成育　（水分活性の制御方法、測定方法）	1	外部講師
3	測定器具の確認（糖度、塩分、PH、水分活性）	1	外部講師
4～8	各自が製造した食品の測定（糖度、塩分、PH、水分活性）	5	外部講師
9	テスト	1	松葉
10～15	商品開発のための官能評価について	6	食品開発センター

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F206	食品製造実習	学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ	学年	2年	学期	前期 後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	４月～1月
科目の概要	農産物、畜産物を使って加工技術を学び、商品開発を学ぶ。							
講師名	畜産学科　フードビジネス専攻　主任技師　　今吉里華					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農産物、畜産物の加工を行い、商品開発の知識及び製造技術を習得する。							
使用教材	食品製造実習関連資料							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度(減点)
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して製造知識の習得を判断する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。

回	内　　容	時間	備　考
18	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識 食品表示に関する基礎知識	18	
18	農大産の野菜・作物を使った焼き菓子製造実習 農大産の小麦を使った製パン製造実習 農大産の果樹を使ったジャム類、ドライフルーツ製造実習	18	
18	農大産の畜産物使ったハム、ベーコン、ソーセージ製造実習 農大産の畜産物を使ったレトルトパウチ食品製造実習	18	
36	プロジェクト学習に関連した加工品製造実習 農大産の農畜産物を使った新商品開発	36	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F207	新商品開発		学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ	学年	2年	学期	前期 後期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	４月～１月
科目の概要	宮崎県や農大で生産される素材を用いた新商品開発を行い、農大ブランド作りについて学ぶ。								
講師名	畜産学科　フードビジネス専攻　主任技師　　今吉里華						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	県内や農大の農産物を用いた新商品開発を通して、地元の企業と連携して農大ブランド商品を広める。								
使用教材	食品製造実習関連資料								

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし： 0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い） 0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～6	企業と連携した新商品開発の検討、活動計画つくり	6	
7～12	試作品の製造及び試食会実施	6	
13～18	高校と連携した新商品開発	6	
19～24	栄養成分表示及び商品規格書作成	6	
25～30	販売実習	6	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F208	フードビジネス	学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～3月
科目の概要	フードビジネス関連機関（宮崎市みやＰＥＣ推進機構）や調理・食品製造を学ぶ大学や高等学校との連携による商品開発により、自ら商品を生み出す実践力を身につける。							
講師名	農業大学校　農学科　フードビジネス専攻　教授　松葉　久美 畜産学科フードビジネス専攻　主任技師　今吉　里華					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	宮崎県内におけるフードビジネスの活性化の取り組みを目指して、これまでに培った加工技術や商品開発の知識、消費者へアンケート調査など、自ら考え行動することが出来る。							
使用教材	講師が配布する資料							

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし：　0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い）　0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	講義の進め方、グループワーク	1	担当講師：松葉
2～15	みやざきのフードビジネス　活性化 宮崎市外郭団体　みやＰＥＣ推進機構主催 スイーツプロジェクトに関する活動実践	14	担当講師：松葉、今吉
16～29	ＧＡＰ食材をつかったおもてなしコンテスト関連 延岡学園高等学校調理科との連携 本校ＧＡＰ食材を使った加工品開発	1	担当講師：松葉、今吉
30	レポート	1	担当講師：松葉
授業時間外に必要な学修	スイーツプロジェクトについては、各自でレシピを考案すること		
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出状況やテストの点数等が合格点に達しない場合は、再度テストを実施する。		

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F209	商品開発と流通販売	学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ	学年	2年	学期	前期
授業の方法	演習	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～9月

科目の概要	マーケティングの基礎知識や国内における食の志向について学ぶと共に、持続可能な農業ビジネスを具体的にイメージ出来るよう、顧客が買いたくなる「商品」や「サービス」についてグループディスカッションを通じて学ぶ。		
講師名	外部講師　中島　隆志(パシフィックコンサルタンツ株式会社九州支社宮崎事務所長代理、農業振興公社６次産業化プランナー) 農学科　フードビジネス専攻　教授　松葉久美	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	学生が、マーケティングに関する知識と技術について理解し、販売戦略を計画的に実践できる力を身につけることを到達目標とする。		
使用教材	講師が準備する資料		

成績評価	方法	研修報告書（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	・提出 提出あり：40点 提出なし：　0点 ・内容 Ａ（良い）50点 Ｂ（普通）20点 Ｃ（悪い）　0点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	現代市場とマーケティング ・変貌する食と農	1	外部講師
2	売れる仕組みを考える ・普段の買い物から物を買う理由を考える ・販売体験から売れる理由、売れない理由を考えてみる	1	外部講師
3	販売理念（経営理念）を作る ・機能の定義；物が売れる理由を考えてみる ・機能の整理：抽出した機能から、目指すべき商売を考える	1	外部講師
4	商品のコンセプトを整理する ・目指すべき商売からサービス構成要素を整理する ・サービス構成要素の優先順位を考える	1	外部講師
5	仕入（製造）計画を作る ・どんな姿で販売するかをイメージする ・仕入（製造）手順を整理する	1	外部講師
6	品質管理について ・仕入（製造）の手順、販売のイメージを基に、守らなければならない事を考える。	1	外部講師
7～8	原価管理を行う ・仕入（製造）手順を基に、必要な機材を決定する ・仕入（製造）手順を基に、材料原価を試算する ・費やす時間と費やす加工時間より、人件費、光熱費を試算する。 ・機材の損料を試算する ・荒原価を算出する ・必要な利益額から、販売必要な数量を算出する	2	外部講師
9～10	販売計画を作る　販売計画の発表	2	外部講師
11～15	フィールドワーク研修　販売関連企業実習・レポート	5	視察研修

授業時間外に必要な学修	販売計画を作るために必要な市場調査(商品価格）やイベント時における消費者の反応についてまとめておくこと。学んだことをレポートにまとめる。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。

令和２年度　授業計画書［シラバス］

科目名	F210	6次産業化	学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ	学年	2年	学期	前・後期
授業の方法	講義・演習	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	宮崎県内における6次産業化の施策や総合化事業計画について学ぶ。 県内の6次産業化の実践事例を知る。							
講師名	宮崎県農業振興公社　新農業支援課 農業大学校　甲斐紀子					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	学生が、6次産業化に関する知識と技術について理解し、自ら実践できる力を身につけることを到達目標とする。							
使用教材	講師が配布する資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	宮崎県の6次産業化に関する支援策について	1	農業連携推進課 6次産業化推進担当
2	宮崎県における6次産業化の取組について 総合化事業計画について	1	公益社団法人 宮崎県農業振興公社 新農業支援課
3～6	校外学習（6次産業化に取り組む農業経営者視察　等）	1	視察研修
7～10	校外学習（6次産業化に取り組む農業経営者視察　等）	2	視察研修
11～15	6次産業化商品開発	5	外部講師
授業時間外に必要な学修	県内の6次産業化の取組事例等の収集や商品開発など学んだことをレポートにまとめる。		
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出状況やテストの点数等が合格点に達しない場合は、再度テストを実施する。		